



# アクト

NO. 66

名古屋市演劇練習館機関紙

## エッセイ

### ■ 名古屋演劇鑑賞会(名演)って



工藤 英明 (名古屋演劇鑑賞会事務局長)

今日の芝居をみて、学校を出て就職先が決まらなく悩んでいたAくんはどう思っただろう、毎日介護で疲れてても芝居を観る時間はつくっているBさんは何かを感じたのか。定年退職をしてやりたいことを探しているって言ったCさんは何かつかめたんだろうか。

作れないものです、名演も「手作り」で公演を準備し、人と人が力を出しあって芝居を迎えるということを行っています。具体的には事前の準備のための会議から始まり、多くの観客を迎えるために各々が一緒に芝居を観ていく仲間を誘い、搬入、受付等の会場管理、そして最後の搬出まで、力を出し合っ

て、公演の成功に向けて動いていきます。

名演は演劇を観客の立場から共に関わり、楽しみ、心豊かに生き、感動を共有できる仲間を増やし、人と人との関係を取り戻していく可能性をもったところだと思えます。

毎回例会(公演)の度に、会員の方の顔が浮かんでくる、みんな今日の芝居を観てどうだったんだろうと。

最後に私自身のことを少し書かせてください。学生時代、友人たちが関わっている「小劇場」の舞台を観たのが初めての芝居体験。時代は「小劇場ブーム」と言われ始めた頃です。



エイコーン公演  
「令嬢ジュリー」  
'10年5月19日~20日  
中京大学文化市民会館  
ブルニエホールにて

名演(名古屋演劇鑑賞会)は、定期的に芝居を見続けている鑑賞団体です。1954年に創立され、数多くの舞台を名古屋で上演してきた、そして多くの人たちが芝居に触れてきました。様々な職業や年代の人たちが定期的に芝居を観ることを楽しんでいます。

そんな私が、就職して職場の先輩に連れていかれたのが名演(名古屋演劇鑑賞会)の例会、私にとつての初めての「新劇」の舞台でした、そのあとしばらくして観終わった後に衝撃を受けた例会に出会えたことがきっかけになり、ジャンルにこだわらず様々な芝居を観ていこうと思いはじめました。

演劇に代表される舞台芸術は観客なしには成立し得ないもの。そして「生もの」である舞台は、舞台と共感したり反発したりする観客との交流のなかで、つくりあげられていくものです、継続して様々な芝居を観ていく中で、よりよい舞台作りに貢献できるすぐれた観客になっていければ、と思います。

この芝居は新劇だから…、小劇場から…、と線引きすることなく、まずは様々な舞台に接していくこと、それを共に楽しめる仲間がいればなお楽しいです、一緒に舞台を楽しみませんか。

デジタル化が進行する中、人と人との交流は希薄になってきています。

しかし、演劇は大勢の人が出会い交流しないと

## トピックス

### ■ 泳ぐように踊る



服部 哲郎 (afterimage 主宰・振付家)

2009年。フランス、カーン国立振付センターが日本人3人、フランス人3人、コンゴ人3人のダンサーでダンス作品を創る、という発表をした。その日本人ダンサーを集めるためのオーディションを京都で行うという。

理解したという状態。

芸術が生活の一部になっている。日本ではまだ、余剰、だ。

舞台となったのは京都国際ダンスワークショップフェスティバル、通称「京都の暑い夏」。そのプロジェクトを指揮するのは、同センター芸術監督のエリック・ラムルーとエラ・ファトミのコンビだ。

そんなフランスの恩恵を受け、僕達は踊り、ツアーの為、各地を巡った。創作の過程では振付家が創った振付をなぞる部分は一つもなく、提案されたことを身体で返答し、その良い部分を抜き取って形にしていくスタイルがとられた。

未熟な僕を2人は優しく、そしてプロとして迎えてくれた。プロジェクトの名は「Just to Dance」そして同年9月、僕は渡仏した。

これは異なる民族性や身体的特徴を持つ人々が同じ舞台に挑むときに何が起るのか、という今作の出発地点をよく表した創作スタイルだ。

フランスでの生活は日本でのそれと全て違っていった。お金を払い受けていたレッスンや創作で、今度はお金を貰う。1つの作品を上演するため、慌ただしく過ごしていた時間は嘘のようだ。

僕をよく、自分が日本人であることを意識した。どこにいても僕は外国人なのだ。言葉の壁もある。日本人であることの良さ、それは一体なんだろうと思っていた。

食べて、踊り、眠る。こんなにもシンプルな暮らしがあるとは。

そして1つ気付いたこと。それはお金にならなくてもダンスをしようとする事だ。

フランスでは芸術に投入される国家予算が、日本と2ケタ程違う。

職業的意識が弱いのが弱点だが、やはり情熱がある。劇場法が制定されるかもしれない変革期だが情熱こそが人を動かし、舞台を創る。これを忘れてはいけな

政治が芸術を必要なものと定め、国民がそれを



アフターイメージ 第5回公演  
'09年1月22日~24日  
愛知県芸術文化センター小ホールにて

# アクテノン・シャワー

## ■ キャンドル演劇奨励基金の助成作品募集

キャンドル演劇奨励基金（メ〜テレ事業が平成5年に設定）が、平成22年度の助成作品を募集します。愛知県内に活動拠点を置く演劇団体の舞台公演が対象です。3作品を選考して、各30万円を助成します。募集の要項は下記の通りです。

1. 対象作品：愛知県内に活動拠点を置く演劇団体の県内舞台公演 3作品
2. 公演期間：平成22年10月1日～平成23年9月30日
3. 助成金額：1作品30万円
4. 募集期間：平成22年7月23日（金）まで
5. 申込方法：所定の申込書を下記へ送付
6. 申込書の請求および送付先：（TEL 03-3286-8218）  
〒100-6611 東京都千代田区丸の内1丁目9番2号 グラントウキョウ サウスタワー  
住友信託銀行 リテール企画推進部 公益信託チーム キャンドル担当  
申込書ダウンロードサイドアドレス <http://www.sumitomotrust-koekishintaku.jp>

## ■ 定期利用の受付について

平成22年度（平成23年4月～平成24年3月）分の定期利用を次のとおり受付いたします。

- \* 受付期間／平成22年7月1日～15日（月曜日は除く。）
- \* 対象／演劇の練習
- \* 貸出施設／大練習室1・2、及び小練習室1（いずれも4階）
- \* 利用方法／利用年度を通じて、月2日以上15日以内（ただし、1週間につき3日以内、同一曜日、同一使用時間区分）、1日につき2区分以内。
- \* 使用料／平成22年9月末日までにお支払いいただきます。

## アクテノン利用団体紹介

- ① 発足年 ② 団員数 ③ 主な上演作品／会場（上演年） ④ 連絡先

### 演劇 演劇グループ 紙ふうせん



何とも不器用で出来ない集団である。13年間も続けてこれたことも不可思議だ。これも単に良き指導者のお蔭である。'08より木崎裕次先生を演出に迎えた。演じる私達がごく普通の人間だから、ごく普通の泣いたり笑ったり人間ドラマを描く作品が多い。中でも井上ひさし作品は、応援団であるお客様に喜ばれている。この6月末、小ホールにて「頭痛肩こり樋口一葉」を公演予定。是非ご来場下さい。こんな私達と一緒に芝居をという物好きな方との出会いも大歓迎である。ご一報下さい！

- ① 1997年 ② 6名
- ③ いただきます！／愛知県芸術劇場小ホール('06) キネマの天地／港文化小劇場('08) 結婚仲介人／愛知県芸術劇場小ホール('08)
- ④ 藤井 奈緒美  
☎090-9925-8831

**アクテノンに一言** 東京のJOKO演劇企画の松本永実子氏を中心とした講師陣による演劇力養成講座を主宰して4年目である。会場によく利用させて頂いているが、東京の講師陣絶賛のアクテノン！名古屋は恵まれている。

### 演劇 NAGOYAダイヤモンドズ



名古屋演劇教室は、地域の演劇文化発展を目的として、2008年から活動を開始しました。《NAGOYAダイヤモンドズ》は、その一事業である『初心者向けの演劇ワークショップ』参加者による公演時の団体名です。すでに30名近くが巣立った同WSは、演技だけでなく、スタッフワークなども学ぶ、演劇全般についてのWSです。今年度も5月から第三期目を開催中で、来年初頭には第三回公演も行います。毎回高評をいただくNAGOYAダイヤモンドズ公演に、是非ともご来場下さい。

- ① 2008年 ② 約15名
- ③ 消しゴム／theater Moon('09) みず水の空 そら色の水／七ツ寺共同スタジオ('10)
- ④ 小熊 ヒデジ  
☎0561-54-8984

**アクテノンに一言** 現在、演劇にとって必要なものは、劇場よりも稽古場である。と、多くの関係者が述べています。アクテノンは理想的な、全国に誇るべき施設です。第二アクテノンの誕生を心待ちにしています。多謝。

## 公演のご案内

★アクテノンの利用団体の公演をご案内します。 ① 会場 ② 日時 ③ 料金 ④ 問合せ先

<b>劇団B級遊撃隊</b> <b>第49回公演</b> <b>『カレー屋の女』</b> ～B級改訂版～	① 愛知県芸術劇場小ホール ② 6月11日(金) 7:00、12日(土) 2:00 6:00、13日(日) 2:00 ③ 一般前売 2,800円(当日 3,000円) ユース 2,000円 ※劇団扱いのみ ④ ☎052-752-6556 (劇団) 初演は流山児☆事務所。12年間煮込続けて今回のため佃自身が改訂。本場の味を是非！
<b>千種文化小劇場芸術公演</b> <b>オイスターズ第7回公演</b> <b>『流される』</b>	① 名古屋市千種文化小劇場(ちくさ座) ② 6月24日(木) 7:30、25日(金) 7:30、26日(土) 2:00 6:00 ③ 一般前売 2,500円(当日 2,800円) 学生 1,500円(前売・当日とも) ④ ☎090-1860-2149 (劇団) キャンプ場でダラダラと繰り広げられる、どうしようもなく人間臭い可笑しなやりとり
<b>演劇グループ 紙ふうせん</b> <b>第12回公演</b> <b>『頭痛 肩こり 樋口一葉』</b>	① 愛知県芸術劇場小ホール ② 6月25日(金) 6:30、26日(土) 1:00 6:00、27日(日) 11:30 ③ 一般 3,000円(全自由席) ④ ☎090-9925-8831 (藤井) 毎年、盆の16日の樋口家。赤貧の暮らしに幽霊まで登場してのユーモラスなお話。
<b>発起塾名古屋初公演</b> <b>中・高年ミュージカル</b> <b>『花のクッキー売り娘』</b>	① 名古屋市中村文化小劇場 ② 7月24日(土) 6:30 ③ 前売 2,500円(当日 2,800円) 小学生 1,000円 ④ ☎0120-86-2615 (平日10時～6時) 入塾条件は50歳以上。歌もダンスも芝居も下手だけど本日青春！楽しんでます！



編集発行／平成22年5月25日（年4回）  
 (財)名古屋市文化振興事業団 名古屋市演劇練習館（アクテノン）  
 〒453-0841 名古屋市中村区稲葉地町1-47  
 TEL 052-413-6631 FAX 052-413-6632  
 ※この印刷物は、古紙パルプを含む再生紙を使用しています。

